

令和元年度「民間試験を活用した英語4技能向上事業」

報告書 C高校

1 令和元年度（平成31年度）入学生の指導に係る全体計画 **Plan**

技能	1年	2年	3年
Reading	<p>(指導計画) 教科書の概要理解や精読 要約活動 音読テスト 速読教材</p> <p>(力) 身近な話題についての英文を読み、キーワードなどから概要を理解することができる。(wpm 60~80)</p>	<p>(指導計画) 教科書の概要理解や精読 要約活動 音読テスト 速読教材</p> <p>(力) 様々なジャンルの英文を読んで、段落構成を把握し、概要を理解することができる。(wpm 80~100)</p>	<p>(指導計画) 教科書の概要理解や精読 要約活動 音読テスト 速読教材</p> <p>(力) 社会的・時事的な内容の英文を読み、概要や必要な詳細を正確に理解することができる。(wpm 100~120)</p>
Listening	<p>(指導計画) 授業での Oral Introduction 教科書を用いた聞き取り リスニング教材 外部検定</p> <p>(力) 身近な話題についての英文や会話を聞き、キーワードなどから概要を理解することができる。</p>	<p>(指導計画) 授業での Oral Introduction 教科書を用いた聞き取り リスニング教材 外部検定</p> <p>(力) やや長めの英文や会話を聞き、内容を予測しながら、概要や話し手の意図などを理解することができる。</p>	<p>(指導計画) 授業での Oral Introduction 教科書を用いた聞き取り リスニング教材 外部検定</p> <p>(力) 様々なジャンルの英文や会話を聞き、話の流れを把握しながら概要や必要な詳細を理解することができる。</p>
Speaking	<p>(指導計画) 授業でのペア活動 教科書を用いた表現活動 Retelling Speech 外部検定</p> <p>(力) 身近な話題について、間違いを恐れずに、自分の経験や考えとその理由を述べることができる。</p>	<p>(指導計画) 授業でのペア活動 教科書を用いた表現活動 Retelling Speech 外部検定</p> <p>(力) 社会的な話題について、文のつながりを意識しながら、自分の考えとその理由を話すことができる。</p>	<p>(指導計画) 授業でのペア活動 教科書を用いた表現活動 Retelling Speech 外部検定</p> <p>(力) 社会問題について、聞き手の立場にも配慮しながら、論理的に自分の考えを話すことができる。</p>
Writing	<p>(指導計画) 教科書課末の英作文 ALT の授業での英作文 外部検定</p> <p>(力) 身近な話題や学習したことに対する自分の意見とその理由を 50~60 字程度の英文で書くことができる。</p>	<p>(指導計画) 教科書課末の英作文 ALT の授業での英作文 外部検定</p> <p>(力) 社会問題に対する自分の意見とその理由を文のつながりを意識して 60~80 字程度で書くことができる。</p>	<p>(指導計画) 教科書課末の英作文 週末課題のテーマ作文 外部検定</p> <p>(力) 社会問題に対する自分の意見とその理由を 80~100 字程度の英文で論理的に書くことができる。</p>

2 試験結果を踏まえた（１）現状分析、（２）重点課題、（３）重点課題の克服に向けた実践（指導と評価の工夫） **Do**

平均スコアについては2019年度37回（7月実施）のもの（受験者159名）

技能	（１）現状分析	（２）重点課題
	（３）①実践（指導の工夫）	（３）②実践（評価の工夫）
Reading	（１）平均スコア 128.7 (A1.3) wpm 55.0 ・一文一文の読解に追われ文章の概要を理解できない。語彙力も不足している。 ・まとまった英文を読む機会が少なく、多様なジャンルや形式に対応できない。	（２） ・教科書の導入では、読む速度を意識しながら概要理解の活動を行う。 ・様々なジャンルや形式の英文を読むことに慣れさせる。また語彙力を高める。
	（３）① ・教科書の英文を初見で読み、概要把握や情報検索など様々な読解を経験させた。復習では語彙指導にも力を入れた。 ・ALTの授業ではパンフレット等を用いた自作教材で情報検索の活動を行った。	（３）② ・定期考査などでは初見の長文を出題し、限られた時間内で速読する機会を設けた。 ・毎週、英単語テストを実施した。 ・朝学習や週末課題でも様々な形式の読解の課題を出し、毎回評価した。
Listening	（１）平均スコア 140.7 (A1.3) ・英語を聞き取ることに慣れず、苦手意識を持つ生徒が多い。 ・未知の語彙や表現があったり、英文の分量が多かったりすると、聞き取れない生徒が増える。	（２） ・問題演習以外にも英語を耳にする機会を増やし、聞くことへの抵抗を少なくする。 ・教室英語使用の際も、スピードや音のつながり、繰り返しの回数などを意識する。 ・様々なジャンル・形式に慣れさせる。
	（３）① ・教科書でのリスニング活動では場面や目的に応じた聞き取り方を指導した。 ・副教材を利用して、様々なジャンルの聞き取りを経験できるようにした。	（３）② ・授業だけでなく、定期考査や朝学習、週末課題でも様々な形式のリスニングを行い、日頃からリスニング活動が評価の対象になっていることを意識させた。
Speaking	（１）平均スコア 159.2 (A1.3) ・即興で話すことに抵抗やためらいを感じる生徒が多い。 ・短い英文をいくつか続けて話すことはできるが、つなぎ言葉や接続詞を正しく用いることができない。またより詳しい情報を伝える力が不足している。	（２） ・初期の段階では、正確さより流暢さに重きを置き、様々な活動で達成感を感じることを通して、話すことへの自信を高める。 ・ALTとのTTで、時系列を意識して物語を話したり、接続詞を用いて因果関係を説明したりする活動を行う。
	（３）① ・活動では段階的な指導を十分に行い、達成感につながるよう指導した。 ・流暢さに重きは置くが、全体的な誤りについてはクラスで共有し、文法的な正確さにも目を向けられるようにした。	（３）② ・課末に Retelling や Role Play、Presentation を行った。評価では文法的な正確さより、内容を重視した。 ・ALTの授業でグループ演習に取り組みせ内容と文法について振り返りを行った。
Writing	（１）平均スコア 193.4 (A2.1) ・定型表現を使って、自分の意見とその理由を書くことに慣れていない。 ・短い英文をいくつか続けて書くことはできるが文と文とのつながりを意識した表現ができない。語彙力も課題である。	（２） ・自分の意見とその理由を一定の型を用いて伝える力をつけるよう指導する。 ・評価については内容を重視するが、全体的に誤りの多い、but や Because などの接続詞の使い方を重点的に指導する。
	（３）① ・教科書課末で一定の型を用いて、自分の考えとその理由を書く活動を行う。 ・その際、教科書の内容や語彙を用いて意見が展開しやすいよう工夫する。	（３）② ・課末の活動と類似した問題を考査に出題することで評価する。 ・重点的に指導した文法事項については必ず評価し、正確さの向上も図る。

3 実践の検証 **Check** 及び改善案 **Act**

スコアについては前回と 2019 年度 38 回（12 月～1 月実施）の結果を比較（受験者 158 名）

技能	実践の検証	改善案
Reading	①平均スコア 136.2 (A1.3) wpm 58.3 平均値では目標を達成できなかったが、目標の wpm 60 以上の生徒が 43 名から 62 名と増加した。wpm 50 未満は 57 名から 35 名に減少した。	①制限時間内に、様々なジャンルの長文を読んで概要を読み取ったり、パンフレットなどから情報を検索したりする機会をさらに多く設定する。語彙力や文法力についても継続して指導を行う。
	①パンフレットなどから情報を検索したり、慣れない内容の長文から文章の主旨を読み取ったりすることを苦手とする生徒が多い。語彙力をいかに伸ばすかも今後の課題である。	②今後も朝学習や週末課題、外部模試などを活用し、既習事項の定着を確認する。また、生徒の興味関心に応じた時事的な題材を取り入れながら、学習意欲の向上を図りたい。
Listening	①平均スコア 140.7(A1.3) → 143.7(A1.3) スコアはわずかに伸びたが、依然としてリスニングに対して苦手意識を感じる生徒が多く、継続的な指導を行う必要がある。	①問題演習の量を増やすだけでなく、語彙練習や音読での発音指導、ディクテーションなど英語の音を聞き取るための指導を充実させる。また、授業にも様々なジャンル、形式のリスニングを取り入れる。
	②当初の計画ほど、リスニングの機会を持つことができなかった。また朝学習や週末課題、外部模試でリスニングを行った後に、振り返りの機会を十分に持つことができなかった。系統的な指導サイクルを確立する必要がある。	②朝学習や週末課題、外部模試と授業を連動させたり、副教材と教科書を組み合わせたりして指導を行う。また、インタビューやニュースなど生徒の興味関心に応じた時事的な題材を取り入れて、情報を聞き取ったり、概要を把握したりする機会を増やす。
Speaking	①平均スコア 159.2(A1.3) → 212.5(A2.1) 平均スコアを大きく伸ばし、A2 レベルの生徒が 17 名から 126 名と増加した。毎学期のパフォーマンス評価や対策の活動が効果を上げたと思われる。	①今年度の活動や対策のための活動を来年度も継続する。その際、流暢さはもちろんのこと、正確さの向上にも努めたい。今後とも、生徒にとって挑戦的でありつつも達成感を感じることのできるパフォーマンス評価を行っていききたい。
	②多くの生徒が、自分の意見については、簡単な語句や短い文で伝えられるようになったが、その理由や自分の経験などを分かりやすく述べるのが十分にできていない。	②自分の意見を述べるための活動を今後も継続する。その際、ペアやクラスで考えを共有したり、ディベートのような活動を取り入れたりすることで、内容を充実させ、論理的思考力・表現力を高める。
Writing	①平均スコア 193.4(A2.1) → 188.2(A1.3) 平均値とグレードがわずかに下がった。Part B で自分の意見とその理由を書くことができた生徒は多かった一方で、身近な話題についてメールを返信する Part A の評価が低かった。	①自分の意見とその理由を書く活動は授業で経験しているが、Part A のように一定の条件の中で、メールの返信をするような活動は経験が少ない。今後、身近な話題について書く機会を増やすとともに、様々なジャンルのライティングに挑戦したい。
	②基本的な英文をつなげて短い文章を書く力についてはついてきているが、文のつながりを意識して接続詞を効果的に使用したり、適切な語彙や表現を使用したりすることに課題が残る。文法の正確さも課題である。	②まとまりのある文章を書く際に、その構成やつながりを意識させて、接続詞を適切に使えるよう継続的に指導する。また正確性を向上させるため、Dictogloss やクラスでの誤り分析など、文法の正確さに目を向けさせる活動を工夫したい。